

日本貨物鉄道株式会社  
代表取締役社長 伊藤 直彦 殿

# 要望書

青い森鉄道線「目時・八戸間」及び並行在来線  
「八戸・青森間」の持続的な安定経営に向けて



平成18年9月20日

青森県

青い森鉄道線「目時・八戸間」及び並行在来線「八戸・青森間」の持続的な安定経営に向けて

本県の並行在来線区間（目時・青森間121.9km）は、地域住民の日常生活に欠かすことのできない貴重な足として、極めて重要な役割を担っています。

しかしながら、現在運行中の青い森鉄道線目時・八戸間（25.9km）は、実質的に年間約3億円もの赤字となる非常に厳しい経営状況にあり、今後、青森まで延伸しても引き続き厳しい経営環境におかれることが想定されます。加えて、青森延伸に伴う初期投資等にも多額の県費負担が懸念されるところです。

一方で、本県の並行在来線区間は、貴社の貨物列車が1日約40本走行する北海道と首都圏を結ぶ貨物輸送の大動脈であるため、旅客鉄道の輸送量が必要とする水準をはるかに超えた規模の鉄道施設等を保有・管理せざるを得ない状況となっています。

つきましては、このような状況を踏まえ、本県の並行在来線が青い森鉄道線として将来にわたり安定した経営を維持できるよう、次の事項について対応されるようお願い申し上げます。

記

- 1 貨物列車走行の実態に即した適切な線路使用料とすること
- 2 並行在来線区間を運営する青い森鉄道株式会社へ出資すること

平成18年9月20日

青森県知事 三村 申吾